

未治療高齢者多発性骨髄腫における治療法と予後の検討 (FBMTG EMM13附随研究)

目的

多発性骨髄腫は、完全治癒は困難な疾患ですが、新薬であるボルテゾミブ、サリドマイド、レナリドミドの登場により治療成績が向上しています。多発性骨髄腫は、高齢発症が多く、合併症も多いため、治療の奏功による臨床症状の改善と治療の副作用による生活の質(Quality of Life: QOL)の変化を評価する必要があります。本研究では、治療法の選択は、主治医判断としていますが、その後の治療効果、QOL評価(評価尺度は、EORTC QLQ-C30およびQOQ-MY20を使用)を行い、治療法別の治療成績およびQOL評価を検討する予定です。